

Ivanti Patch for Windows[®] Servers

インストールおよびセットアップ ガイ



著作権および商標

本書には Ivanti, Inc. およびその関連会社 (集的に「Ivanti」) の機密情報および専有財産が含まれており、Ivanti の事前の書面による同意なく開示または複製することは禁止されています。

Ivanti はいつでも通知なく、本文書または関連する製品仕様と説明を変更する権利を有するものとします。Ivanti は本文書の使用を保証せず、本文書に含まれる一切の瑕疵について責任を負いません。また、本書に記載されている情報を更新する義務を負わないものとします。最新の製品情報については、www.ivanti.com をご覧ください。

Copyright © 2009 – 2017, Ivanti. All rights reserved.

Ivanti およびそのロゴは Ivanti, Inc. およびその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。他のブランドおよび名称は財産として他者に帰属している場合があります。

文書情報および印刷履歴

日付	バージョン	説明
2011 年 10 月	VMware vCenter Protect 8.0	製品ブランドの更新、セットアップウィザードへの参照の削除、システム要件の更新、HTTPプロキシ情報の追加。
2012年 9月	VMware vCenter Protect 8.0.1	製品ブランドの更新、セットアップ ウィザードへの参照の削除、システム要件の更新、HTTP プロキシ情報の追加。
2013年 5 月	Shavlik Protect 9.0	バージョン9.0の一般的な更新。
2013 年 6 月	Shavlik Protect 9.0, Patch 1	手動アクティベーション情報の更新。
2014 年 4 月	Shavlik Protect 9.1	システム要件の更新、インストールおよびアクティベーションプロセスの更新、ローカライズされたヘルプ情報の追加。
2015年 9月	Shavlik Protect 9.2	システム要件、その他のマイナー アップデート。
2017年4月	Ivanti Patch for Windows® Servers 9.3	Ivanti へのブランド名変更、システム要件の更新、ウイルス対策への参照の削除。

目次

Ivanti Patch for Windows® Servers のご利用について.....	5
パッチ管理.....	5
資産インベントリ.....	5
電源管理.....	5
ITScript.....	6
プログラムのエディション.....	6
Ivanti Patch for Windows® Servers 製品版.....	7
Ivanti Patch for Windows® Servers 試用版.....	7
Ivanti Patch for Windows® Servers 政府版.....	7
システム要件.....	8
コンソール.....	8
クライアント (エージェントなし).....	9
Ivanti Patch for Windows® Servers エージェントを実行するクライアント.....	12
ポート要件.....	13
インストール.....	14
ユーザ アカウント要件.....	14
ソフトウェアの取得.....	14
前提条件のインストール.....	14
自動インストール.....	14
手動インストール.....	14
SQL Server のインストール前の注記.....	15
新規インストールの実行.....	16
インストール ログ ファイル.....	21
HTTP プロキシのインストール後の注記.....	21
SQL Server のインストール後の注記.....	22
コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにリモート SQL Server を手動で構成する.....	22
他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する.....	25
データベースでの定期メンテナンスの実行.....	25
製品の使用開始.....	26
Ivanti Patch for Windows® Servers の起動.....	26
Ivanti Patch for Windows® Servers の認証.....	26
インターネットに接続している場合.....	27
インターネットに接続していない場合 (オフライン ネットワーク モード).....	28
安全なオフライン ネットワークから認証する場合.....	28
次の手順.....	29
ライセンスの追跡方法.....	30

このページは意図的に空白になっています。

Ivanti Patch for Windows® Servers のご利用について

○

Microsoft ベースのコンピュータの管理と保護に使用される統合された IT 管理プラットフォームである Ivanti Patch for Windows® Servers をご利用いただき、誠にありがとうございます。Ivanti Patch for Windows® Servers は一元化された共通のインターフェイスを備えており、このインターフェイスからさまざまな基本的な IT 管理機能を実行できます。

パッチ管理

Ivanti Patch for Windows® Servers が提供する業界最高のパッチ管理機能では、ネットワーク内のすべての Windows コンピュータと VMware ESXi Hypervisor をスキャンし、これらのコンピュータの現在のパッチ ステータスを評価できます。スキャンの実行後は、各コンピュータのパッチの「正常性」に関する詳細情報が含まれるレポートを生成できます。Ivanti Patch for Windows® Servers は簡単に使用でき、自動的に各コンピュータを最新の状態にします。簡単な操作で、目的のパッチをダウンロードし、選択したコンピュータに配布できます。配布の実行日時、各コンピュータを再起動するかどうか、コンピュータの再起動時刻を指定することもできます。また、Ivanti Patch for Windows® Servers には電子メール アラート機能があり、パッチが利用可能なときに通知し、選択したユーザと共有するスキャン結果およびその他の情報を電子メールで送信できます。

パッチ管理機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。この独自のエージェントに基づく技術とエージェントを使用しない技術を組み合わせることで、管理負荷を最小化しながら、最大限の柔軟性を得ることができます。

資産インベントリ

資産インベントリ機能では、ソフトウェアおよびハードウェア資産を追跡できます。スキャンを実行し、物理コンピュータとオンライン仮想コンピュータに含まれるソフトウェアおよびハードウェアを検出して分類します。スキャンの実行後すぐに、ソフトウェアとハードウェア資産の詳細情報が表示されます。また、レポートを作成し、経時的に資産インベントリを追跡できます。

パッチ管理機能のように、資産インベントリ機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。

電源管理

メモ: 電源管理は Ivanti Patch for Windows® Servers Advanced または Ivanti Patch for Windows® Servers Standard へのアドオンとしてのみ提供されています。この機能を使用できない場合は、営業担当者にお問い合わせのうえ、Ivanti Patch for Windows® Servers ライセンスをアップグレードしてください。

ようこそ

電源管理機能では、社内のコンピュータの電源状態を制御できます。電源管理を使用する主な理由は次のとおりです。

- メンテナンス タスクに備えてコンピュータを準備する
- 騒音および電力消費量を削減する
- 運用コストを削減する
- バッテリーの寿命を長くする

即時またはスケジュールに基づいて、コンピュータをシャットダウン、再起動、またはウェイクアップできます。スケジュールされた再起動を実行するときには、完全電源オン、スリープ モード、または休止モードのいずれかから、コンピュータの電源状態を指定できます。電源管理機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。

ITScript

メモ: ITScripts 機能の一部は Ivanti Patch for Windows® Servers Advanced または Ivanti Patch for Windows® Servers Standard へのアドオンとしてのみ提供されています。この機能のすべてを使用できない場合は、営業担当者にお問い合わせのうえ、Ivanti Patch for Windows® Servers ライセンスをアップグレードしてください。

ITScript 機能では、既に Ivanti Patch for Windows® Servers で定義されているコンピュータとコンピュータ グループに対して、PowerShell スクリプトを実行できます。このスクリプト機能によって次の操作が可能です。

- Ivanti が提供するすべての定義済みスクリプトにアクセスする
- カスタム スクリプトをインポートする
- カスタム スクリプトを ITScript コミュニティと共有する
- スクリプトをただちに実行する
- 将来の指定した日時にスクリプトを実行するようにスケジュールを作成する
- Windows PowerShell リモート機能を使用するか、使用せずに、スクリプトを実行する
- Ivanti Patch for Windows® Servers から実行されたすべてのスクリプトの結果を表示する

プログラムのエディション

Ivanti Patch for Windows® Servers は2つの異なる製品バンドルで提供されます。

- Ivanti Patch for Windows® Servers Standard:これは基本的な製品であり、パッチ管理、資産インベントリ、および一定数の IT 管理用スクリプトが提供されています。アドオン機能として個別のライセンスキーを追加で購入することができます。
- Ivanti Patch for Windows® Servers Advanced:これは全機能を備えた製品であり、パッチ管理、資産インベントリ、電源管理、および完全な ITScript 機能が提供されています。

Ivanti Patch for Windows[®] Servers には複数の版があります。各版では、異なるレベルの機能が提供されています。実行中のエディションを確認するには、**[ヘルプ] > [Ivanti Patch for Windows[®] Servers のバージョン情報]** を選択し、プログラムの詳細情報を表示します。

このセクションには、使用可能な各エディションの概要が表示されます。

Ivanti Patch for Windows[®] Servers 製品版

これは完全版プログラムです。Ivanti Patch for Windows[®] Servers を使用すると、インストールされていないパッチのスキャンとインストールを実行し、このような処理結果を表示できます。プログラム ライセンスによって提供されるすべての他の機能にもアクセスできます (Ivanti Patch for Windows[®] Servers Standard または Ivanti Patch for Windows[®] Servers Advanced)。

Ivanti Patch for Windows[®] Servers 試用版

Ivanti Patch for Windows[®] Servers は試用版でのみ提供されます。これにより、60日間のみ、Ivanti Patch for Windows[®] Servers の全機能を試用できます。50 ライセンスに限定することもできます。試用版ライセンスの有効期限が切れると、XML データ ファイルの更新が停止し、プログラム機能のほとんどが使用できなくなります。

Ivanti Patch for Windows[®] Servers 政府版

Ivanti Patch for Windows[®] Servers 政府版 を購入すると、Information Assurance Vulnerability Alert (IAVA) Reporter を使用するためのライセンス キーが付属しています。IAVA 固有のファイルは、Ivanti Patch for Windows[®] Servers Standard または Ivanti Patch for Windows[®] Servers Advanced がインストールされるときに自動的にインストールされます。

システム要件

コンソール

制限事項:

- コンソール コンピュータでは、NTFS ファイル システムが必要です。
- LDAP 証明書認証を使用するドメイン コントローラでコンソールをインストールする場合、SSL 証明書と Ivanti Patch for Windows® Servers プログラム証明書間の競合の問題を回避するようにサーバを構成しなければならない場合があります。Windows Server 2003 ドメイン コントローラでは簡単な構成方法がなく、この組み合わせはコンソールでの使用には推奨されていません。
- データベースを共有する 2 台以上のコンピュータでコンソールをインストールする場合、ユーザ認証資格の問題を回避するには、すべてのコンソール コンピュータで一意的セキュリティ識別子 (SID) が必要です。仮想マシンのコピーを作成する場合や使用しないコンピュータが存在する場合は、SID が重複する可能性が高くなります。

プロセッサ:

- 最低:2 GHz 以上の 2 台のプロセッサ コア
- 推奨:2 GHz 以上の 4 台のプロセッサ コア (250 ~ 1000 ライセンス)
- 高パフォーマンス:2 GHz 以上の 8 台のプロセッサ コア (1000 以上のライセンス)

メモリ:

- 最低:2 GB の RAM
- 推奨:4 GB の RAM (250 ~ 1000 ライセンス)
- 高パフォーマンス:8 GB の RAM (1000 以上のライセンス)

ビデオ:

- 1024 x 768 以上の画面解像度 (1280 x 1024 推奨)

ディスク領域:

- アプリケーション用に 100 MB
- 2 GB 以上、パッチ リポジトリ用には10 GB 以上を推奨

オペレーティング システム (次のいずれか):

メモ: Ivanti Patch for Windows® Servers は、次の一覧で示す64 ビット バージョンのオペレーティング システムをサポートします。コンソールでは 32 ビット バージョンはサポートされていません。

- Windows Server 2016 Family (サーバコアとナノサーバを除く)
- Windows Server 2012 Family R2 Cumulative Update 1以降 (サーバコアを除く)
- Windows Server 2012 Family (Server Core を除く)
- Windows Server 2008 Family R2 SP1 以降 (Server Core を除く)

- Windows 10 Pro、Enterprise、または Education Edition
- Windows 8.1 Cumulative Update 1以降 (Windows RT を除く)
- Windows 7 SP1 以降、Professional、Enterprise、または Ultimate Edition

データベース:

- Microsoft SQL Server データベース [SQL Server 2008以降] の使用。SQL Serverデータベースにアクセスできない場合は、前提条件のソフトウェアインストールプロセス中に SQL Server 2016 SP1 Express Edition (サポートされている場合) または SQL Server 2014 Express Edition をインストールするオプションが提供されます。
- 5 GB

前提条件ソフトウェア:

- Microsoft SQL Server 2008以降の使用
- Microsoft .NET Framework 4.6.2 以降
- Microsoft Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2015
- 0 (ITScript 機能で必要な Windows PowerShell 4.

この前提条件は、Windows 8.1以降および Windows Server 2012 R2以降には適用されません。PowerShell 4.0はこれらのオペレーティング システムに既に含まれています。

0が既に含まれている Windows 8.

- Ivanti Patch for Windows® Servers の全機能にアクセスするには、管理者権限を持つアカウントで実行する必要があります

構成要件

- コンソール コンピュータの資産スキャンを実行するときには、Windows Management Instrumentation (WMI) サービスを有効にし、コンピュータへのプロトコルを許可する必要があります。

クライアント (エージェントなし)

オペレーティング システム (次のオペレーティング システムの 32 ビットおよび 64 ビット バージョン)

- Windows XP Professional (Windows XP Family SP3以降にパッチを配布できます)
- Windows XP Tablet PC Edition
- Windows XP Embedded
- Windows Server 2003、Enterprise Edition (W2K3 SP2以降にのみパッチを配布できます)
- Windows Server 2003、Standard Edition
- Windows Server 2003、Web Edition
- Windows Server 2003 for Small Business Server
- Windows Server 2003、Datacenter Edition
- Windows Vista、Business Edition

ようこそ

- Windows Vista、Enterprise Edition
- Windows Vista、Ultimate Edition
- Windows 7、Professional Edition
- Windows 7、Enterprise Edition
- Windows 7、Ultimate Edition
- Windows Server 2008、Standard
- Windows Server 2008、Enterprise
- Windows Server 2008、Datacenter
- Windows Server 2008、Standard - Core
- Windows Server 2008、Enterprise - Core
- Windows Server 2008、Datacenter - Core
- Windows Server 2008 R2、Standard
- Windows Server 2008 R2、Enterprise
- Windows Server 2008 R2、Datacenter
- Windows Server 2008 R2、Standard - Core
- Windows Server 2008 R2、Enterprise - Core
- Windows Server 2008 R2、Datacenter - Core
- Windows 8
- Windows 8 Pro
- Windows 8 Enterprise
- Windows 8.1
- Windows 8.1 Enterprise
- Windows Server 2012、Foundation Edition
- Windows Server 2012、Essentials Edition
- Windows Server 2012、Standard Edition
- Windows Server 2012、Datacenter Edition
- Windows Server 2012 R2、Essentials Edition
- Windows Server 2012 R2、Standard Edition
- Windows Server 2012 R2、Datacenter Edition
- Windows 10 Pro
- Windows 10 Enterprise
- Windows 10 Education
- Windows Server 2016、Essentials Edition
- Windows Server 2016、Standard Edition (サーバコアとナノサーバを除く)
- Windows Server 2016、Datacenter Edition (サーバコアとナノサーバを除く)

仮想マシン (次のいずれかによって作成されたオフライン仮想イメージ):

- VMware ESXi 5.0 またはそれ以降 (仮想マシンでは VMware ツールが必要です)
- 0以降 (仮想マシンでは VMware ツールが必要です)
- VMware Workstation 9.
- VMware Player

構成要件

- リモート レジストリ サービスを実行する必要があります
- 簡易ファイル共有をオフにする必要があります。
- サーバ サービスを実行する必要があります。
- NetBIOS (TCP 139) または Direct Host (TCP 445) にアクセス可能である必要があります。
- Windows Update サービスは無効にしないでください。パッチを正常に配布するには、**手動**または**自動**に設定する必要があります。また、各ターゲット コンピュータの Windows Update 設定 (**【コントロール パネル】 > 【システムとセキュリティ】 > 【Windows Update】 > 【設定の変更】**) を **【更新を確認しない】** に設定してください。
- コンソールがターゲットマシンとRDP接続を行うためには、リモートデスクトップ接続を許可する必要があります
- Windows XP/Windows 2003 コンピュータの Windows ファイアウォールでは、このサービス名は Remote Administration です。

サポートされている製品 (パッチ プログラム):

- 最新の一覧については、<http://www.shavlik.com/support/protect/supported-products/> をご覧ください。

ディスク領域 (パッチ プログラム):

- 空き領域は配布中のパッチのサイズの 5 倍と同じサイズでなければなりません。

サポートされている言語 (パッチ プログラム):

- アラビア語、中国語 (簡体)、中国語 (繁体)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ポルトガル)、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、タイ語、トルコ語

ようこそ

Ivanti Patch for Windows® Servers エージェントを実行するクライアント

メモ: エージェント コンピュータでは、NTFS ファイル システムが必要です。

プロセッサ:

- 500 MHz 以上の CPU

メモリ:

- 最低: 256 MB の RAM
- 推奨: 512 MB 以上の RAM

ディスク領域:

- Ivanti Patch for Windows® Servers エージェント クライアント用に 30 MB
- パッチ リポジトリ用に 500 MB 以上

オペレーティング システム (ホーム エディションを除く、次のオペレーティング システムのすべて):

- Windows Vista Family
- Windows 7 Family
- Windows 8 Family (Windows RT を除く)
- Windows 10 Family
- Windows Server 2008 Family
- Windows Server 2008 Family R2
- Windows Server 2012 Family
- Windows Server 2012 Family R2
- Windows Server 2016 Family

前提条件ソフトウェア

- MSXML 3.0 または最新

構成要件

- ワークステーション サービスを実行する必要があります。

ポート要件

既定のポート要件は次のとおりです。複数のポート番号が設定可能でなければなりません。

	受信ポート (基本 NAT ファイアウォール)									
	TCP 80	TCP 135	TCP 137 ~ 139 または TCP 445 (Windows ファイル共有/ディレクトリ サービス)		TCP 443	TCP 3121	TCP 3122	TCP 4155	TCP 5120	TCP 5985
クライアント システム		X (資産スキャン用)	X	X				X (リスニング エージェント用)	X	X (WinRM プロトコル用)
コンソール システム						X	X			
配布サーバ	X		X	X	X					

	送信ポート (非常に制限されたネットワーク環境)						
	TCP 80	TCP 137 ~ 139 または TCP 445 (Windows ファイル共有/ディレクトリ サービス)		TCP 443	TCP 3121	TCP 5120	UDP 9
クライアント システム	X (エージェント用)	X	X	X (クラウド エージェント用)	X (エージェントおよび配布追跡用)		
コンソール システム	X	X	X	X (クラウド同期用)		X	X (WoL およびエラー報告用)

インストール

ユーザ アカウント要件

- SQL Server データベースを作成するためには、新しいインストールを実行するユーザが db_owner ロールのメンバーでなければなりません。
- 新しいコンソールにプログラムをインストールし、既存のデータベースにリンクしている場合、ユーザ アカウントには、db_datareader、db_datawriter、STExec、および STCatalogupdate 権限が必要です。これらのアクセス権を付与する最も簡単な方法は、db_securityadmin および db_accessAdmin ロールにユーザを追加することです。

ソフトウェアの取得

Ivanti Patch for Windows® Servers は次の Web ダウンロード センターからダウンロードできます。
<https://www.ivanti.com/ja-jp/resources/downloads>. ダウンロード センターには、常に利用可能な最新バージョンの Ivanti Patch for Windows® Servers があります。

前提条件のインストール

自動インストール

Ivanti Patch for Windows® Servers インストール中に、前提条件を自動的にインストールできます。

手動インストール

前提条件を自分でダウンロードおよびインストールする場合は、次の URL を使用します。オペレーティング システムには既にほとんどの前提条件が含まれている場合があるため、インストールされていない前提条件だけをインストールしてください。

SQL Server 2016 SP1 Express Edition

完全版または Express 版の SQL Server がない場合にのみ必要です。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-editions-express>

.NET Framework 4.6.2

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53345>

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53344> (オフライン環境)

Visual C++ 2015 Redistributable (x64)

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53840>

Windows Management Framework 4.0

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=40855>

SQL Server のインストール前の注記

Ivanti Patch for Windows® Servers はすべてのスキャンおよびパッチ配布結果を SQL Server データベースに保存します。SQL Server バックエンドにより、パッチ管理タスクを実行する全担当者間で、リアルタイムのコラボレーションとナレッジ管理が可能です。SQL Server データベースを使用する利点は次のとおりです。

- 少数または多数のコンピュータをスキャンするときの高パフォーマンス
- リモート コンピュータでのデータの保存
- 複数の Shavlik Protect Ivanti Patch for Windows® Servers コンソールがテンプレート、コメント、レポート、およびスキャン結果を共有可能

Ivanti Patch for Windows® Servers をインストールする前に、次の SQL Server メモを確認してください。

- Microsoft SQL Server が必要です。
SQL Server がない場合、Ivanti Patch for Windows® Servers のインストール処理中に、Microsoft SQL Server 2016 SP1 Express Edition (サポートされている場合) または Microsoft SQL Server 2014 Express Edition がコンソール コンピュータにインストールされます。
- Microsoft SQL Server の Express Edition を使用している場合は、Microsoft SQL Server Management Studio Express のダウンロードとインストールを検討してください。この無料ソフトウェアを使用し、データベースのバックアップと管理が可能です。
- SQL Native Client が以前にインストールされている場合は、SQL Express のインストールが失敗する場合があります。インストールを実行する前に、**[プログラムの追加と削除]** を使用して、SQL Native Client をアンインストールすることを強くお勧めします。
- 指定された SQL Server へのアクセス権が必要です。指定された SQL Server へアクセスするために、Windows 認証または SQL Server 認証がサポートされています。管理者アクセス権は不要ですが、指定された SQL Server の製品データベースを作成および入力する権限が必要です。また、Ivanti Patch for Windows® Servers コンソール コンピュータのバックグラウンド サービスが SQL Server にアクセスできなければなりません。すべてのバックグラウンド サービスはコンソールの LocalSystem アカウントで実行されます。リモート サーバで統合 Windows 認証を使用している場合は、必ず、SQL Server のコンソール ログイン アカウントを定義するときのコンピュータ アカウントを使用してください。

メモ:セキュリティ上の理由から、Ivanti は可能な限り Windows 認証を使用することをお勧めします。Ivanti Patch for Windows® Servers コンソールからの Windows 認証資格情報を許可するためのリモート SQL Server の構成については、「SQL Server のインストール後の注記」をご参照ください。

- データベースを作成するには、インストール処理中に指定するユーザ アカウントに *db-creator* ロールを割り当てる必要があります。
- リモート コンピュータで SQL Server を使用している場合は、リモート接続を許可するようにサーバを構成する必要があります。この操作は、SQL Server 構成マネージャを使用して実行できます。
- 冗長化のためにクラスタ化された構成を使用する場合は、インストール前に構成する必要があります。次に、インストール処理中に仮想クラスタ インスタンスを参照します。SQL Server Express Edition では、クラスタ構成はサポートされていません。

新規インストールの実行

重要!前のバージョンからアップグレードする場合は、この手順を実行しないでください。Web サイトにあるアップグレード ガイドを参照してください。

<https://www.ivanti.com/ja-JP/support/product-documentation>

メモ:オフラインのコンピュータにインストールし、前提条件ソフトウェアのいずれかがインストールされていない場合、インストール処理を開始する前に、接続されたコンピュータから必要なソフトウェアをダウンロードし、接続されたコンソールに手動でインストールする必要があります。

1. Ivanti Patch for Windows® Servers 実行ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

メモ:再起動が必要であることを示すメッセージが表示された場合は、**[OK]** をクリックすると、再起動した後に、自動的にインストール処理が再開されます。

前提条件プログラムがインストールされていない場合は、**[セットアップ]** ダイアログに表示されます。前提条件プログラムがインストールされている場合は、手順 2 ~ 4 を省略し、直接手順 5 の **[よろこ]** ダイアログに移動します。

2. ブラウザを起動し、インターネットを閲覧するたびに、ユーザ名およびパスワードを入力する必要がある場合、**[プロキシ設定]** チェック ボックスをオンにし、リンクをクリックしてから、必要な認証資格情報を入力します。

ユーザ名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります (例: mydomain\my.name)。後からこれらの設定を修正するには、**[ツール]** > **[オプション]** > **[プロキシ]** を選択します。

また、インストールの完了後に、HTTP プロキシ情報を修正しなければならない場合があります。詳細については、「**HTTP プロキシのインストール後の注記**」を参照してください。

3. **【インストール】** ボタンをクリックし、インストールされていない前提条件をインストールします。

前提条件の一部には、インストール後に再起動が必要な場合があります。この場合、続行する前に、インストール プログラムによって、システムの再起動が要求されます。再起動後、インストール プログラムが自動的に再起動します。
4. (条件) 再起動が必要な前提条件がインストールされていない場合、インストールを続行するには、再起動後に **【インストール】** をクリックします。
5. **【ようこそ】** ダイアログの情報を確認し、**【次へ】** をクリックします。

使用許諾契約が表示されます。プログラムをインストールするには、使用許諾契約の条項に同意する必要があります。
6. インストールを続行するには、**【次へ】** をクリックします。

【インストール先フォルダ】 ダイアログが表示されます。
7. プログラムの既定の場所を変更する場合は、**【参照】** ボタンをクリックし、新しい場所を選択します。

ヒント: ショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**【デスクトップにショートカットを作成する】** チェック ボックスをオンにします。
8. **【次へ】** をクリックします。

【製品改善プログラム】 ダイアログが表示されます。説明を読み、プログラムに参加するかどうかを決定します。このプログラムでは、Shavlik が、今後の製品バージョン改善の目的で、製品の使用状況情報を収集することを可能にします。

完了したら、**【次へ】** をクリックします。**【インストール準備完了】** ダイアログが表示されます。
9. インストールを開始するには、**【インストール】** をクリックします。

インストール処理が終わりに近づくと、**【データベース セットアップ ツール】** ダイアログが表示されます。
10. 使用する Ivanti Patch for Windows® Servers データベースが既にインストールされている場合、**【既存のデータベースを使用する】** を選択し、**【次へ】** をクリックします。それ以外の場合、**【新しいデータベースを作成する】** を選択し、**【次へ】** をクリックします。

次のようなダイアログが表示されます。

インストール

11. 指定されたボックスを使用し、ユーザおよびサービスが SQL Server データベースにアクセスする方法を定義します。

データベース サーバとインスタンスの選択

- **サーバ名:** コンピュータを指定するか、コンピュータおよびコンピュータで実行中の SQL Server インスタンスを指定できます (例: *machinename*\SQLExpress)。SQL Server が既にインストールされている場合は、ローカル SQL Server インスタンス名がこのボックスに自動的に入力されます。
- **データベース名:** 使用するデータベース名を指定します。既定のデータベース名は **Protect** です。

ユーザによる対話方式でのデータベース接続方法の選択

ユーザがデータベースへのアクセスを必要とする処理を実行するときに、プログラムで使用する認証資格情報を指定します。

- **統合 Windows 認証:** これは推奨される既定のオプションです。Ivanti Patch for Windows[®] Servers は現在ログインしているユーザの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。【ユーザ名】 および 【パスワード】 ボックスは使用できません。
- **特定の Windows ユーザ:** SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このオプションを選択します。これにより、特定の Windows ユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定できます。データベースがローカル (コンソール) コンピュータにある場合は、このオプションの効果はありません。(ローカル コンピュータ認証資格情報の詳細については、『**Ivanti Patch for Windows[®] Servers 管理ガイド**』の「認証資格情報の指定TAG」をご参照ください。すべての Ivanti Patch for Windows[®] Servers ユーザは、リモート SQL Server データベースとのインタラクションが必要な操作を実行する場合、提供された資格情報を使用します。
- **SQL 認証:** このオプションを選択すると、指定された SQL Server にログインするための特定の SQL Server ユーザ名およびパスワードの組み合わせを入力できます。

注意! SQL 認証資格情報を指定し、SQL 接続の SSL 暗号化が実装されていない場合、認証資格情報はクリア テキスト形式でネットワーク上に渡されます。

- **サーバ接続のテスト:** 指定したインタラクティブ ユーザ認証資格情報を使用して SQL Server データベースに接続できることを検証するには、このボタンをクリックします。

サービスによるデータベース接続方法の選択

データベースに接続するときに、バックグラウンド サービスで使用する認証資格情報を指定します。SQL Server にログインし、ステータス情報を提供するために、結果のインポート ユーザ、エージェント処理、および他のサービスが使用する認証資格情報があります。

- **コンソール サービスでの別の認証資格情報の使用:**
 - SQL Server データベースがローカル コンピュータにインストールされている場合、一般的に、このオプションを無視するには、チェック ボックスをオフにします。この場合、インタラクティブ ユーザに対して指定した認証資格情報および認証モードが使用されます
 - 通常、SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このチェック ボックスをオンにします。データベースがリモート コンピュータ上にある場合、リモート データベース サーバのデータベースで認証できるアカウントが必要です。
- **認証方法: [コンソール サービスで別の認証資格情報を使用する] が有効な場合にのみ使用できます。**
 - **統合 Windows 認証:**このオプションを選択すると、リモート SQL Server に接続するためにコンピュータ アカウントが使用されます。認証資格情報を安全に送信するためには、Kerberos ネットワーク認証プロトコルが使用できなければなりません。[ユーザ名] および [パスワード] ボックスは使用できません。

メモ:[統合 Windows 認証] を選択した場合、コンピュータ アカウントで SQL Server ログイン情報を作成しようとします。アカウント作成処理が失敗した場合、リモート SQL Server を手動で構成し、コンピュータ アカウント認証資格情報を許可する手順について、22 ページの「SQL Server のインストール後の注記」をご参照ください。この手順は、Ivanti Patch for Windows® Servers のインストール処理が完了した後、プログラムを起動する前に実行します。
 - **特定の Windows ユーザ:**これにより、特定のユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定できます。Ivanti Patch for Windows® Servers のバックグラウンド サービスでは、これらの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。これは、何らかの理由により、統合 Windows 認証を実装できない場合、優れたフォールバック オプションになります。
 - **SQL 認証:**このオプションを選択すると、SQL Server にログインするときに使用するサービスで、特定の SQL Server ユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定します。

インストール

12. すべての必須情報を入力した後、**[次へ]** をクリックします。

メモ:インストール プログラムで、指定した認証資格情報に関する問題が検出された場合、エラー メッセージが表示されます。通常、これは指定したユーザ アカウントが存在しないことを示します。修正してから、再試行してください。

データベースの作成、リンク、またはアップグレードが実行されます。データベース処理が完了すると、**[データベース インストール完了]** ダイアログが表示されます。

13. **[次へ]** をクリックします。

[インストール完了] ダイアログが表示されます。

14. **[完了]** をクリックします。

[完了] ダイアログが表示されます。

15. Ivanti Patch for Windows® Servers をすぐに起動する場合は、**[Ivanti Patch for Windows® Servers を起動する]** チェックボックスをオンにして、**[完了]** をクリックします。そうでない場合は、**[完了]** のみをクリックします。

インストール ログ ファイル

インストールに関する質問やヘルプが必要な問題がある場合は、Ivanti サポート担当者にお問い合わせの前に、インストール ログ ファイルを見つけてください。インストール ログはこちらにあります:**C:\Users\user name\AppData\Local\Temp**

このディレクトリには次の 3 つのインストール ログ ファイルがあります。

- メイン インストール ログ ファイル:ProtectSetup_date_time.log
- 前提条件インストール ログ ファイル:PreSetupdate.log
- Windows インストーラ ログ ファイル:ProtectInstall_date_time.log

HTTP プロキシのインストール後の注記

HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスする場合には、次の要件に注意してください。

- ブラウザのプロキシ サーバ設定で **[ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない]** チェック ボックスをオンにする必要があります。これらの設定を表示するには、Internet Explorer の **[ツール]** メニューで **[インターネット オプション]** をクリックし、**[接続]** タブをクリックしてから、**[LAN 設定]** をクリックします。**[ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない]** チェック ボックスをオンにすると、Ivanti Patch for Windows® Servers コンソールがローカル ネットワークのコンピュータに接続するときに、プロキシ サーバが使用されません。
- コンソール サービスは、ユーザ単位のプロキシ アドレス情報を読み取ることも参照することもしません。コンソール サービスのプロキシ アドレスを構成するには、**STServiceHost.exe.config** ファイルを手動で修正し、proxy、bypass local、および bypasslist を定義する既定のプロキシ XML タグを含める必要があります。このためには、基本の <configuration> 要素の下に次の XML を追加します。

```
<system.net>
  <defaultProxy>
    <bypasslist>
      <add address="127.
      <add address="::1" />
      <add address="RollupConsoleNameOrIPAddress" />
    </bypasslist>
    <proxy bypassonlocal="True"
proxyaddress="http://ProxyNameOrIP:Port" />
  </defaultProxy>
</system.net>
```

SQL Server のインストール後の注記

コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにリモート SQL Server を手動で構成する

メモ:ここで説明する手動処理は、製品インストール中に自動アカウント作成処理が失敗した場合にのみ必要です。

統合 Windows 認証を使用して、リモート SQL Server にアクセスする場合、Ivanti Patch for Windows[®] Servers が正しくサーバと通信するために、コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにサーバを構成する必要があります。この作業は、Ivanti Patch for Windows[®] Servers をインストールした直後、実際にプログラムを起動する前に、実行することをお勧めします。ただし、プログラムの起動後でも、この手順を実行できます。これよりも前に開始するすべてのスキャンで、リモート SQL Server データベースとの通信が必要な場合、通常はスキャンが失敗します。

このセクションでは、Ivanti Patch for Windows[®] Servers コンソールから Windows 認証 (コンピュータ アカウント) 認証資格情報を許可するように、リモート SQL Server を構成する方法について説明します。セキュリティ上の理由から、Ivanti は可能な限り Windows 認証を使用することをお勧めします。次の例では Microsoft SQL Server Management Studio をエディタとして使用しますが、これ以外の任意のツールも使用できます。

1. The Ivanti Patch for Windows[®] Servers コンソールと SQL Server は同じドメインに参加するか、信頼できる関係のある異なるドメインに存在する必要があります。

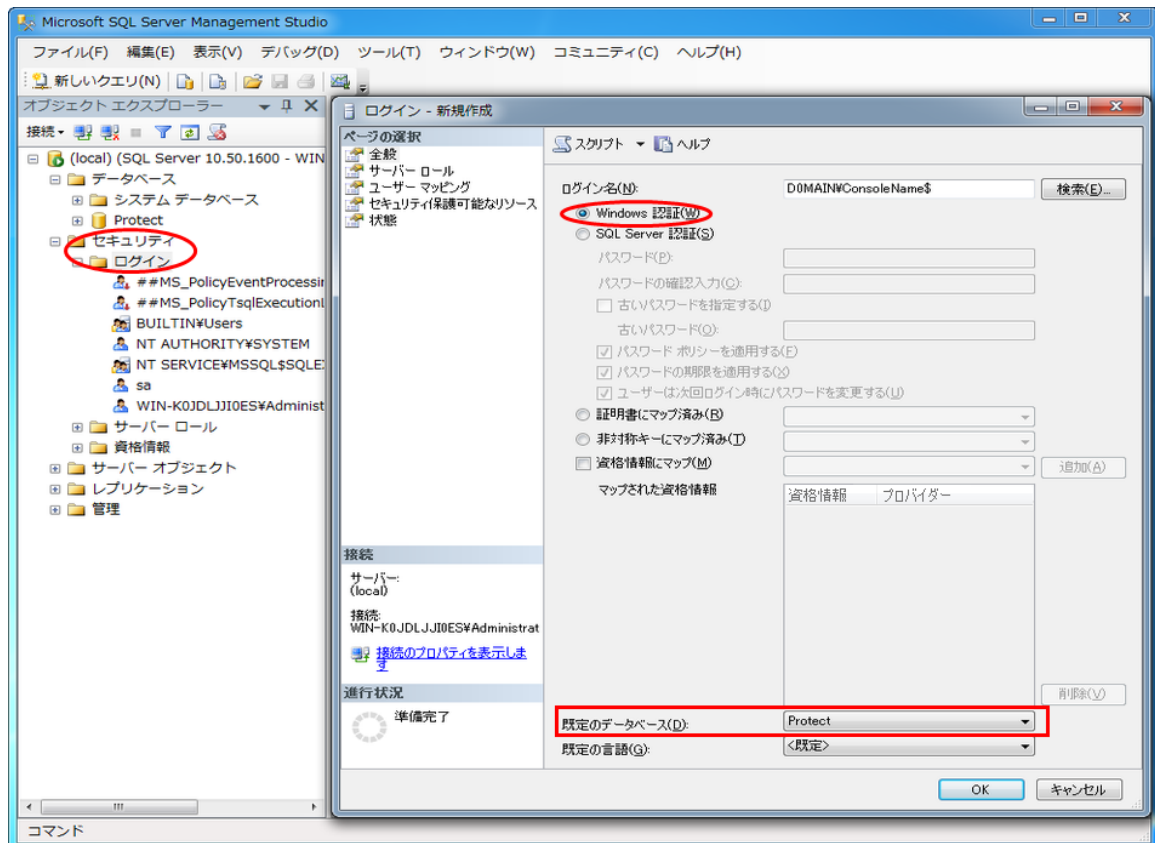
これにより、コンソールとサーバが認証資格情報を比較し、安全な接続を確立できます。

2. SQL Server で、使用する Ivanti Patch for Windows[®] Servers の新しいログイン アカウントを作成します。(アカウントを作成するには、*securityadmin* 権限が必要です。

手順:[セキュリティ] ノード内で、[ログイン] を右クリックし、[新しいログイン] を選択します。SAM 対応形式 (ドメイン\コンピュータ名) を使用して、ログイン名を入力します。コンピュータ アカウントはコンソールのコンピュータ名であり、末尾に \$ が付いていなければなりません。

メモ:[検索] オプションは使用しないでください。特殊名であるため、手動で名前を入力する必要があります。

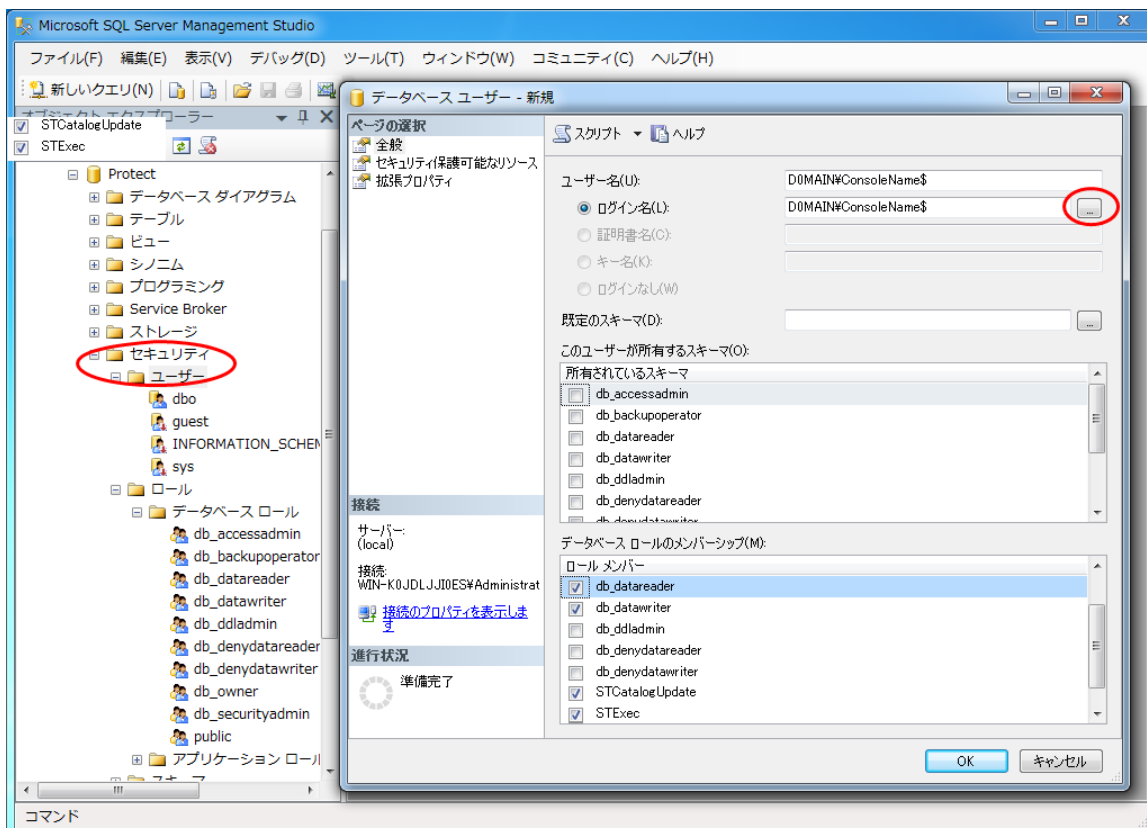
[Windows 認証] を選択し、[既定のデータベース] ボックスで [Ivanti Patch for Windows[®] Servers] データベースが選択されていることを確認します。例:



- Ivanti Patch for Windows® Servers データベースで、コンソール コンピュータ アカウントを使用して新しいユーザ ログインを作成します。

[ユーザフォルダを右クリックし、[新しいユーザ]を選択し、[ログイン名]を参照して検索し、その名前を [ユーザ名] ボックスに貼り付けます。db_datareader、db_datawriter、STCatalogUpdate、および STExec ロールをユーザに割り当てます。例:

インストール



4. Ivanti Patch for Windows® Servers を起動します。
5. 必要に応じて、トラブルシューティングを実行します。
 - SQL Server 利用状況モニターを使用し、パッチ スキャンの実行時に接続の試行が成功したかどうかを判断できます。
 - SQL Server ユーザ アカウントを作成する前に Ivanti Patch for Windows® Servers を実行した場合、一部のサービスが SQL Server に接続できない場合があります。[コントロール パネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択し、サービスを再起動してください。
 - 接続の試行が失敗する場合、SQL Server ログのメッセージを確認することで、失敗の原因を判断できます。

他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する

メモ:このセクションは、ロール ベースの管理機能を使用している場合にも適用されます。

他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する場合は、ユーザに必要なデータベース アクセス権が割り当てられるように、SQL Server を構成しなければならない場合があります。特に、統合 Windows 認証を使用しているときには、データベース コンピュータ上で管理者権限のないユーザに対して、すべてのテーブルとビューへの読み書き権限を付与する必要があります。また、Ivanti Patch for Windows® Servers アプリケーション データベース内のすべてのストアード プロシージャの実行権限も付与する必要があります。そうでないと、Ivanti Patch for Windows® Servers を起動できない場合があります。

これらの権限を付与するために、*db_owner* ロールをユーザに割り当てることができます。ただし、セキュリティ上の理由から、これが最善の方法ではない場合があります。より安全な代替策は、データベース レベルで実行権限を付与することです。このためには、該当するユーザに *STExec* ロールを割り当てます。

データベースでの定期メンテナンスの実行

Ivanti Patch for Windows® Servers では、古いスキャンの削除、インデックス ファイルの再構築、およびバックアップを自動的に実行し、データベースの定期メンテナンスを実行できます。詳細については、ヘルプ ファイルの「データベース メンテナンス」を参照してください。

製品の使用開始

Ivanti Patch for Windows® Servers の起動

メモ: Ivanti Patch for Windows® Servers の全機能を利用するには、管理者権限のある Windows アカウントで実行する必要があります。

Ivanti Patch for Windows® Servers は次の2つの方法で起動できます。

- デスクトップの Ivanti Patch for Windows® Servers アイコンをタップまたはダブルクリックします
- **[スタート] > [Ivanti Patch for Windows® Servers] > [Ivanti Patch for Windows® Servers]** を選択します

ホーム ページが表示されます。

Ivanti Patch for Windows® Servers の認証

Ivanti Patch for Windows® Servers を認証するまでは、ごく一部の処理しか実行できません。1 つ以上の認証キーを入力して、プログラムを認証します。Ivanti Patch for Windows® Servers を認証するには:

1. ライセンス キーの電子コピーがある場合は、コンピュータのクリップボードにコピーします。
一般的に、ライセンス キーは、製品の購入時に、Ivanti から電子メールで送信されます。
2. Ivanti Patch for Windows® Servers メニューから **[ヘルプ] > [ライセンスキーの入力/更新]** を選択します。
[認証] ダイアログが表示されます。
3. (任意) このダイアログの起動後までキーをコンピュータのクリップボードにコピーしていない場合は、**[貼り付け]** をクリックします。
また、認証キーを手入力することもできます。
4. (任意) プロキシ サーバを使用する場合は、**[プロキシの構成]** をクリックし、認証プロセスが認証サーバまで到達するために必要な認証資格情報を指定します。

ヒント: ブラウザを起動してインターネットにアクセスするたびに、ユーザ名とパスワードを入力する必要がある場合は、一般的にプロキシ サーバが使用されています。

インターネットに接続している場合

1. 認証モードを選択します。
 - **製品またはバンドル ライセンス:**このオプションを選択すると、1 つ以上の認証キーを指定できます。複数のキーを受信する場合は、必ずすべてを **【認証キーの入力】** ボックスに貼り付けます。各キーは異なるエディション (Standard、Advanced)、ライセンス数 (ワークステーション、サーバ)、または有効期限を表します。キーは追加できるため、最終的な製品ライセンスは、個別のキーで提供されるすべての機能とライセンス数の集合となります。
 - **試用モード:** 60日間のみ、Ivanti Patch for Windows® Servers の全機能を試用できます。50 ライセンスに限定することもできます。試用版ライセンスの有効期限が切れると、データ ファイルの更新が停止し、プログラム機能のほとんどが使用できなくなります。
 - **手動ライセンスのインポート:**Shavlik Web ポータルで生成されたライセンスをインポートできます。これは、外部ネットワークに接続されていないコンソール コンピュータによってのみ使用されます。詳細については、次のセクションをご参照ください。
2. 認証キーが **【認証キーの入力】** ボックスに入力されていることを確認します。
入力されていない場合は、キーをコンピュータのクリップボードにコピーしてから、**【貼り付け】** をクリックします。
3. **【オンライン認証】** を選択します。
4. **【すぐにオンラインで認証】** をクリックします。

認証が成功した場合、「**Patch for Windows® Servers 製品の認証が正常に完了しました**」というメッセージがダイアログの下部付近に表示されます。
5. **【閉じる】** をクリックします。

インターネットに接続していない場合 (オフライン ネットワーク モード)

メモ:安全な環境外へのファイルの転送を許可しない安全なサイトにいる場合は、この手順を使用できません。この場合は、次の「安全なオフライン ネットワークから認証する場合」セクションをご参照ください。

1. 認証モード (製品またはバンドル ライセンス、または試用モード) 選択します。
2. キーを **[認証キーの入力]** ボックスに貼り付ける、もしくは入力します。
3. **[手動]** 認証を選択します。
4. **[要求の作成]** をクリックします。
LicenseInfo.xml ファイル (XML ファイル) と **DisconnectedLicenseInfo.txt** (テキスト ファイル) の 2 つのファイルが作成され、コンソール コンピュータのデスクトップに保存されます。この手順では XML ファイルが使用されます。テキスト ファイルは無視されます。
5. この XML 認証要求ファイルをインターネットに接続しているコンピュータに移動します。
6. インターネットに接続されているコンピュータで、ブラウザを開き、
<https://license.shavlik.com/OfflineActivation> にアクセスします。
7. **LicenseInfo.xml** 認証要求ファイルをアップロードします。
Web ポータルはライセンス情報を処理し、ライセンス ファイルを生成します。
8. 処理されたライセンス ファイルをダウンロードし、コンソール コンピュータに移動します。
9. Ivanti Patch for Windows® Servers で、**[ヘルプ]** > **[ライセンスキーの入力/更新]** を選択します。
10. Ivanti Patch for Windows® Servers 認証ダイアログで、**[手動ライセンスのインポート]** をクリックします。
11. 処理されたライセンス ファイルの場所に移動し、**[開く]** をクリックします。
Ivanti Patch for Windows® Servers はファイルを処理し、プログラムが認証されます。

安全なオフライン ネットワークから認証する場合

安全な環境外へのファイルの転送を許可しない安全なサイトにいる場合は、この認証手順を使用します。

1. 認証モード (製品またはバンドル ライセンス、または試用モード) 選択します。
2. キーを **[認証キーの入力]** ボックスに貼り付ける、もしくは入力します。
3. **[手動]** 認証を選択します。
4. **[要求の作成]** をクリックします。
LicenseInfo.xml ファイル (XML ファイル) と **DisconnectedLicenseInfo.txt** (テキスト ファイル) の 2 つのファイルが作成され、コンソール コンピュータのデスクトップに保存されます。この手順では text ファイルが使用されます。XML ファイルは無視されます。

5. **DisconnectedLicenseInfo.txt** ファイルを開き、ファイルの内容を間違えないように書き留めます。
6. インターネットに接続されているコンピュータで、ブラウザを開き、
<https://license.shavlik.com/OfflineActivation> にアクセスします。
7. 認証要求データを手入力し、**【送信】** をクリックします。
Web ポータルはデータを処理し、ライセンス ファイルを生成します。
8. 処理されたライセンス ファイルをダウンロードし、コンソール コンピュータに移動します。
9. Ivanti Patch for Windows[®] Servers で、**【ヘルプ】** > **【ライセンスキーの入力/更新】** を選択します。
10. Ivanti Patch for Windows[®] Servers 認証ダイアログで、**【手動ライセンスのインポート】** をクリックします。
11. 処理されたライセンス ファイルの場所に移動し、**【開く】** をクリックします。

Ivanti Patch for Windows[®] Servers はファイルを処理し、プログラムが認証されます。

次の手順

Ivanti Patch for Windows[®] Servers をインストールして認証した後、すぐにプログラムのすべての領域を使用し始めることができます。ただし、最高の経験を実現するため、次の手順を実行することをお勧めします。

- コンピュータ グループの作成: コンピュータ グループは、組織内のコンピュータを論理的に整理して追跡するために使用されます。Ivanti Patch for Windows[®] Servers によってもさまざまな処理が実行されます。詳細については、オンライン ヘルプ システムの **【クイック スタート】** > **【セットアップ】** > **【コンピュータ グループの使用】** をご参照ください。
- 認証資格情報の定義と割り当て: 認証資格情報はユーザ名とパスワードの組み合わせです。これらは、リモート コンピュータへのアクセス、スキャンの実行、必要なファイルのプッシュのために使用されます。詳細については、オンライン ヘルプ システムの **【クイック スタート】** > **【セットアップ】** > **【認証資格情報の指定と管理】** をご参照ください。
- (オプション) 配布サーバを設定します。配布サーバは、XML データ、スキャン エンジン、パッチ、およびサービス パックを、リモート コンピュータのエージェントとコンピュータに配布するために使用されます。1 つ以上の配布サーバを使用すると、ネットワーク トラフィックを削減し、プログラム処理を高速化できます。詳細については、オンライン ヘルプ システムの **【管理】** > **【配布サーバの使用】** をご参照ください。
- 英語以外を使用している場合、インターネットに接続していると、ローカライズされたバージョンのヘルプ システムを使用できます。**【ツール】** > **【オプション】** > **【表示】** の順に選択し、**【ヘルプ トピックの表示】** ボックスで **【Web】** を選択します。

ライセンスの追跡方法

パッチ配布が実行される時、パッチが存在していない場合は、Ivanti Patch for Windows® Servers によってデータベースにコンピュータ名が記録されます。ここから、配布可能な残りクライアント数が対象コンピュータごとに1ずつ減算されます。Ivanti Patch for Windows® Servers Agent を使用する場合、各エージェント コンピュータにはライセンスが割り当てられ、使用可能なライセンス数の合計に対してカウントされます。同じコンピュータがエージェントレス方式とエージェント方式の両方で管理されている場合は、コンピュータは1度だけカウントされます。同様に、仮想マシンをスキャンするときには、オンライン（電源オン）モードとオフライン（電源オフ）モードの両方でスキャンされる場合であっても、コンピュータは1度しかカウントされません。

使用済みライセンス数をすばやく確認するには、**[ヘルプ] > [Ivanti Patch for Windows® Servers について]** を選択します。例: